

From **Ibigawa S A B O**



2016 越美山系砂防3大ニュース

本年も残りわずかとなりました。2016年最後の発行となる本号は、本年発行のクマタカ通信記事の中から、当事務所職員が選んだTOP3を紹介し、1年を振り返ります。皆様、良いお年をお迎え下さい。

第1位

高地谷第1砂防堰堤起工式開催

「砂防ソイルセメント工法」では日本最大となる、高地谷第一砂防堰堤の本体工事着手に伴い、10月27日に起工式を行いました。平成20年に工事着手して以来、8年の準備工事を経て、本体工事に着手することができました。



この砂防堰堤が完成すると、河川への土砂の流入を抑制することにより、下流小津地区をはじめ、揖斐川沿川の市町の洪水に対する安全性が大きく向上します。

第2位

「無人航空機による災害調査に関する覚書」締結！

近年急速に普及するドローン等を活用し、迅速に危険な土砂災害現場の状況を把握するための覚書きを、当事務所と（一社）岐阜県測量設計業協会が締結しました。



土砂災害発生時、早期の復旧や住民の安全確保のためには、一刻も早い災害現場の状況把握が必要ですが、この締結により、災害発生時、近づくのが危険な箇所についてもドローン等により迅速に被害の調査ができるようになりました。

第3位

「奥越豪雨50年 防災講演会」開催！

当事務所設立のきっかけとなった奥越豪雨大災害から50年を契機に、過去の災害を学び、今後の災害に備えるために、1月20日、「奥越豪雨50年 防災講演会」を開催しました。

岐阜大学の木村名誉教授より「土砂災害から身を守る」ための知識について、田中元坂内村長・所元根尾村長より当時の災害の様子についてご講演をいただき、大雪の中、定員を上回る約220名が聴講されました。



被災経験談の様子

工事現場技術者による安全施工技術発表会を開催しました

12月8日に当事務所の工事・業務の各受注者が安全対策への取り組みについて発表を行いました。発表では、建設業労働災害防止協会より講師を招いての安全教育、急峻な現場での墜落・転落防止対策、法面点検にUAVの活用、女性目線での現場環境改善などについて各受注者独自の取り組みを発表し、意見交換を行いました。なお、同日に優秀論文の選考も行い、以下の方に表彰状が贈られました。

最優秀賞 中島義裕氏（杉山建設（株））
優秀賞 篠田達也氏（（株）久保田工務店）
堀部真矢氏（西建産業（株））



発表状況



女性も働きやすい工事現場の実現を目指し、女性職員が審査を担当（当事務所初）

※法人については文中敬称略



クマタカ通信をメール配信します。配信希望の方は下記宛に「配信希望」とメールを送信して下さい。また、クマタカ通信の感想やご意見もお待ちしています。

発行 国土交通省中部地方整備局
越美山系砂防事務所 揖斐川砂防出張所
〒501-0619 岐阜県揖斐郡揖斐川町三輪2303-3
Tel: 0585-22-3526 Fax: 0585-22-6626
E-mail: cbr-ibigawasabo@mlit.go.jp

コラム：ドローンと入職促進

文：越美山系砂防事務所長 伊藤 誠記

今年、越美山系砂防事務所では、特にドローンを使った施策を推進しました。

- ・岐阜県測量設計業協会とのドローンによる災害時調査に関する覚書の締結
- ・夏休み親子教室の開催（ドローン操縦体験）
- ・ドローンによる砂防堰堤堆砂量の計測
- ・職員によるドローン操作チーム「無人飛行隊」の結成

など、他にも、土砂掘削の起工測量にドローンを活用した工事もありました。

これらは、何より土砂災害対策の必要に迫られて行ったものですが、一方で、建設業の魅力向上、入職促進に繋がることも企図しています。

なぜこれが入職促進に繋がるのか、それは、クマタカ通信 vol.122でも紹介しました、新卒者が企業を選択する際のポイントに理由があります（図-1）。若者が仕事に求めるものは、賃金・福利厚生ではありません。大多数の者は、「自分のやりたい仕事（職種）ができる会社」、つまり「やりがい」を会社選びのポイントとしています。

つまり、「自分のやりたい仕事ができる会社、業界」と思われれば、若者はその業界に入ってくる可能性があるということです。

では、どのようにしたら、「自分のやりたい仕事」と思わせることができるのでしょうか？

ここからは私の推測になりますが、若者が「その仕事を希望してみよう」という理由を挙げてみますと、例えば①社会から求められているという使命感、②克服すべき課題・困難の存在、③先進技術を扱うなどのカッコよさ、④周囲から一目置かれることで満たされる自尊心、などが挙げられるのではないかと思います。

そこで、この1年、これらを刺激することを意識しながら広報活動を行い、ドローンは、主に③を感じさせることを目指して、活用を推進してきました。

即効性のある取組みではありませんので、来年も引き続き生徒・学生の皆さんの反応を見ながら、業界の魅力や先進性、使命感などを説教臭くならず伝える技術を磨いていきたいと思えます。

若者を引き付けるアイデア、視点など、皆様のお考えをお聞かせいただくとありがたいです。

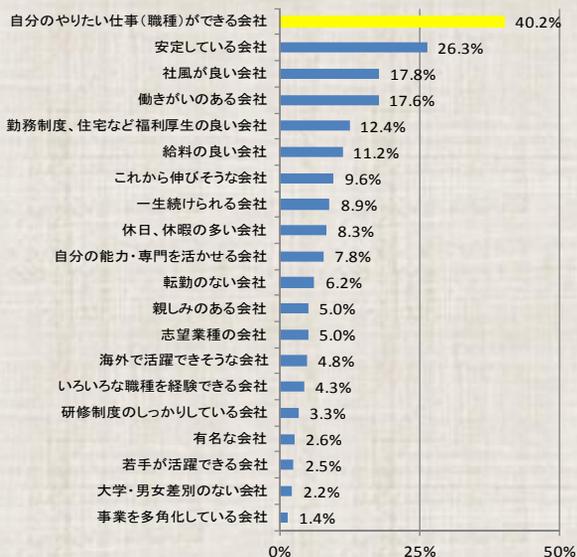
さて、少しスペースが空きましたので、次回予告をしたいと思います。

いままでさんざん不足が叫ばれ、対策が打たれてきたはずですが、それでも建設業で働く人の数が増えません（図-2）。どうすればよいか、ということを考える前に、そもそも増えない理由は、建設業に入ってくる人が減っているのか、それとも出て行く人が増えているのか？データを収集・分析してみました。来年も、クマタカ通信をよろしく願いいたします。また来年も、皆様にとって、よい年でありますように。



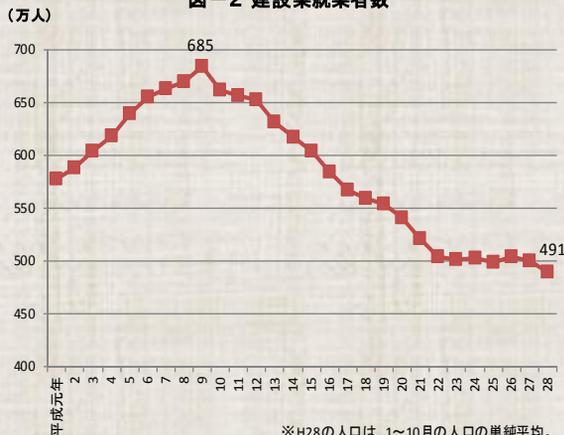
夏休み親子教室でのドローン操縦体験。「おもしろそう」「カッコいい」アピールを狙ってます

図-1 新卒者の企業選択ポイント



出典：(株)マイナビ2016年卒マイナビ大学生就職意識調査

図-2 建設業就業者数



※H28の人口は、1～10月の人口の単純平均。
出典：労働力調査(総務省)